



DOCOMO TEAM DANDELION RACING Team Release

決勝レポート

2026/7/19 Rd-7 FUJI SPEEDWAY

天候：曇り時々晴れ 気温：28℃ 出走台数：24 台

観客数：17 日(金)3,600 人、18 日(土)22,700 人、19 日(日)29,700 人 合計 56,000 人

週末 3 連戦の締めくくりとなる第 7 戦富士スピードウェイ。

フロントロウからスタートの牧野選手と 2 列目 3 番グリッドスタートも太田選手は、レコノサンスラップで入念にスタート練習を行いスタートの時を待つ。

しかし、フォーメーションラップ中のトラブル車両により、全周にわたってオイルが撒かれてしまい、レースは赤旗でスタートディレイ。

コースのオイル処理を終え、予定より 45 分遅れでレースは SC スタートにより再開された。SC ランを終え 6 周目にレースはスタート。牧野選手、太田選手、野尻選手の 3 ワイドで 1 コーナーに飛び込むが、3 台の隙をついてフラガ選手がポジションアップ。牧野選手 3 番手、太田選手 4 番手でオープニングラップを周回した。

太田選手は周回ごとにポジションを上げ、10 周目には首位に。牧野選手も 3 番手までポジションを取り戻す。ピットストップウィンドウが開くと、上位陣が次々とピットへ向かうが、DOCOMO TEAM DANDELION RACING の 2 台は、レース後半を見越してステイアウト。

25 周目にフラガ選手がピットインすると、それに反応して翌周に太田選手が、その翌周には牧野選手がタイヤ交換を済ませ、自己ベスト連発の予選モードで順位を取り戻す。

太田選手は 30 周目に首位ポジションを取り戻すとその後も差を広げてトップチェッカー。牧野選手は 32 周目に 2 台を抜くと、翌周に野尻選手を抜いて 3 番手に。さらにファステストラップタイムを刻んでフラガ選手を追うが 1.5 秒届かず 3 位でレースを終えた。

5：牧野任祐 選手 3 位

3 位表彰台は嬉しいですが、スタートポジションを維持できなかったのは悔しいです。

序盤とタイヤ交換後の車はパフォーマンス高くファステストラップタイムも記録できるほどでしたが、中盤のペースが上がらず苦しかったです。

レース中の良い時と悪い時のバランスの差が大きいので、この点は課題として残りましたね。やっとトップ集団の戦いに戻れました。後半戦でシリーズ巻き返します。

6：太田格之進 選手 1 位

序盤から激しいレースになるとは思っていたので、積極的に攻める走りをしました。

決勝ペースは速さがありましてし、チーム戦略も素晴らしかった。

瑤子女王杯において 2 戦とも優勝できたことは大きな価値があると感じます。

次戦 SUGO でも攻めの気持ちでシリーズ後半に繋がるレースをします。